

ごみ収集の戸別収集 を支える収集員たち

恵庭市のごみ収集は、他市町村ではめずらしい戸別収集方式を採用しています。

この戸別収集方式は、ごみの収集地点も多くなり、収集にかかる労力も多大なものになります。それを支えているのがごみ収集員の人たち。今回は、ごみ収集員の1日に密着して、実態を紹介します。

◆問合せ先◆ ゼロカーボン推進室廃棄物管理課 ☎ 33-3131（内線1133）

戸別収集が始まった経緯

戸別収集が始まる前、恵庭市では補助制度を活用したステーション設置によるごみ収集を行っており、各町内会でステーションの管理を行っていました。

しかし、町内会でステーションの管理をするのが難しいとの声が多くなったことから、段階的に戸別収集への移行が始まりました。

その後、平成7年10月に中身が見えない黒いごみ袋から、市が指定する半透明のごみ袋になりました。これは、中身が見えるごみ袋にすることで、危険物などの混入による事故の発生を防止するなどの理由からでした。

ただ、ごみの中身から生活実態や個人情報が見えることが懸念されるようになり、戸別収集が加速していき、現在の戸別収集方式となりました。

戸別収集とステーション収集の違い

恵庭市に住んでいる人なら当たり前となっている戸別収集。特に戸建て住宅の人であれば、自宅前にごみを排出できる

ことが最大のメリットではないでしょうか。ごみを出す市民にとっては利便性が高いものとなっていますが、そのごみを収集するごみ収集員の立場になってみるとどうでしょうか。どうしてもごみの収集地点が多くなり、収集作業量が増え、収集時間もかかってしまっていることが想像できるかと思えます。

その他にも、戸別収集と旧来のステーション収集のメリットとデメリットを左記の表にまとめました。比較してみるとステーション収集に比べて、戸別収集の方が収集員の作業量が増えることから、必然的にかかるコストも高くなることかわかります。

昨今は物価高騰で人件費などもあがっ

	戸別収集	ステーション収集
○メリット	<ul style="list-style-type: none"> ○市民がごみや資源物を排出しやすい ○高齢者などの排出負担が軽減される ○事業系廃棄物を切り離すことができる ○排出マナーの改善が期待できる ○個別の排出指導などを行いやすい ○ごみや資源物排出に対する責任感の醸成が図られる 	<ul style="list-style-type: none"> ○収集経路が簡略化され、収集時間の短縮が図れ、効率的に収集ができる ○効率的な収集方式により、車両台数と収集人員の適正化が図れ、収集費用が安くなる ○ステーション間の移動が円滑に行え、低速走行や度重なる停車による交通障害が生じない安全な交通環境が確保される ○地域ぐるみで、ごみや資源物の出し方や分別意識を高めることができる
×デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ×収集作業量が多く、収集時間がかかるため、収集費用が増大する ×排出者自身が収集箱などを設置する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ×ごみや資源物の排出者が特定されないため、排出時刻などを守らない、不適正な排出など排出者責任が薄れる ×排出マナーを完全に徹底できない ×悪臭やカラスなどによる散乱被害に対応するため、防御ネットなどステーションの管理を利用者間で行う必要がある ×場所の選定や調整が困難な場合がある ×要介護者、独居高齢者や障がい者などにとっては、ステーションまでごみや資源物を持ち運ぶことが困難となることから、支援策が必要となる

近隣市の動向

ており、戸別収集の経費を捻出するためには、皆さんが日頃購入している有料指定ごみ袋などのごみ処理手数料によって維持する必要があります。

石狩管内における各市の収集方式をみてみると、戸別収集を実施している市は恵庭市と石狩市のみとなっています。

戸別収集はごみ出しをしやすいなどのメリットがある一方、ランニングコストが高くなるデメリットがあります。戸別収集のコストを支えているごみ処理手数料について、下図にまとめました。

恵庭市の場合、戸別収集や市単独運営の焼却施設稼働などにより、多くの処理経費が掛かっています。また、1人あたりの収集運搬経費をみてわかるように、戸別収集を採用している市は6000円台となっており、ステーション収集の市よりも高額なことがわかります。

戸別収集を維持するため、ごみ処理手数料は近隣市よりも比較的高い料金となっています。

		恵庭市	札幌市	江別市	石狩市	千歳市	北広島市	
収集方式	戸別収集	○			○			
	ステーション収集		○	○		○	○	
ごみ処理手数料 (2あたり)	可燃	3円	2円	2円	2円	2円	3円	
	不燃	4円	2円	2円	2円	2円	3円	
	生ごみ	2円	(可燃)	(可燃)	(可燃)	(可燃)	2円	
	資源物	びん・缶・ペットボトル	無料	無料	無料	無料	無料	無料
		プラスチック製容器包装	無料	無料	(一部可燃)	2円(不燃)	1円(資源)	無料
	段ボール・雑誌	無料	集団資源回収	集団資源回収	集団資源回収	集団資源回収	無料	
リサイクル率		37.7%	25.5%	20.8%	17.9%	31.8%	17.9%	
収集運搬経費		4億2,000万円	78億2,700万円	3億6,400万円	3億5,800万円	3億3,600万円	2億6,000万円	
収集運搬経費(市民1人あたり)		6,000円	3,996円	3,057円	6,186円	3,484円	4,532円	

※ごみ処理手数料はR6.4.1現在。リサイクル率、収集運搬経費はR3一般廃棄物実態調査より